








北区の景況




本概要版は、令和7年9月上旬に調べた区内
中小企業の景気動向と、これから先の3ヶ月
間（令和7年10～12月期）の予想をまとめた
ものです。




令和7年7月～令和7年9月期




調査対象 製造業 88社 小売業 49社
サービス業 24社 建設業 30社
調査方法 面接聴取法
調査機関 (一社) 東京都信用金庫協会
分析作成 (株)サーベイリサーチセンター




好調 ← 普通 → 不調

	 A	 B	 C	 D	 E	 F	 G
製造業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下
小売業	10以上	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31～-40	-41以下
サービス業	15以上	14～5	4～-5	-6～-15	-16～-25	-26～-35	-36以下
建設業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下

製造業	前期	 E △ 14.4	業況DI (△17.4) は前期比3.0ポイント減と悪化傾向がさらに強まり、全都 (△10.1) との比較では、本区が7.3ポイント下回った。売上額と収益は減少・減益傾向を多少強め、受注残は前期並の減少幅で推移した。販売価格は上昇が若干弱まり、原材料価格はさらに上昇し厳しさが増した。資金繰りは窮屈感が幾分増したが、借入難易度は前期並の容易さで推移した。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は14.8%で前期 (13.6%) から1.2ポイントの増加となった。残業時間は前期同様落ち着いて推移したが、人手は不足感がかなり強まった。
	今期	 E △ 17.4	
	来期	 D △ 7.7	

小売業	前期	 D △ 19.2	業況DI (△22.6) は前期比3.4ポイント減と悪化幅が若干拡大した。全都 (△13.7) との比較では、本区が8.9ポイント下回っている。売上額は減少がかなり強まり、収益は前期並の減少・減益幅が続いた。販売価格は上昇傾向がかなり強まり、仕入価格は前期並の上昇幅で推移した。資金繰りは前期同様の厳しさが続き、借入難易度も前期並の窮屈感で推移した。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は今期が6.1%で前期 (3.9%) から2.2ポイントの増加となった。残業時間は減少が弱まり落ち着いた状況となり、人手も不足感がかなり改善された。
	今期	 E △ 22.6	
	来期	 E △ 25.3	

サービス業	前期	 C △ 2.4	業況DI (△5.9) は前期比3.5ポイント減とわずかに悪化が強まった。全都 (△3.0) との比較では、本区が2.9ポイント下回っている。売上額は大きく持ち直してわずかにプラスに転じ、収益も水面下ながら大幅に改善した。料金価格は前期並の上昇幅で推移したが、材料価格は前期同様の厳しい状況が続いた。資金繰りは容易さが後退し、借入難易度は前期同様の厳しい状況が続いた。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は4.3%で前期 (12.0%) から7.7ポイントの減少となった。残業時間は減少傾向が弱まり落ち着いた状況となったが、人手は不足感が大きく現れた。
	今期	 D △ 5.9	
	来期	 D △ 5.7	

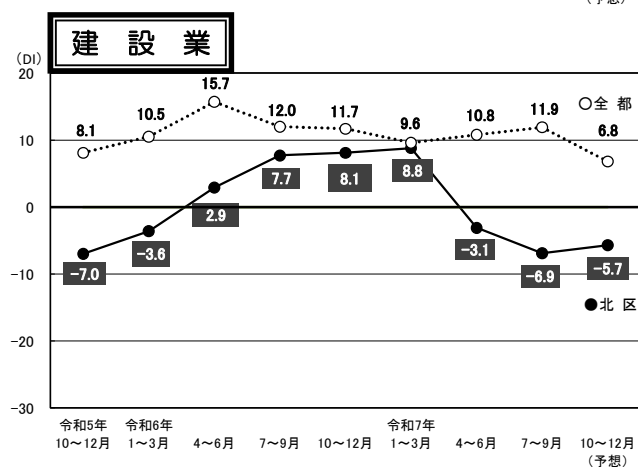
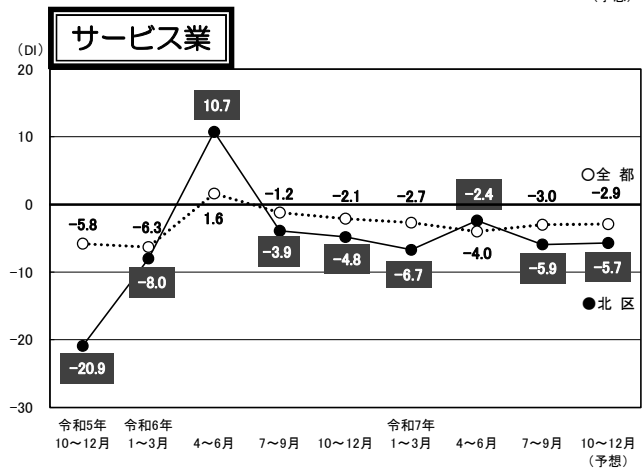
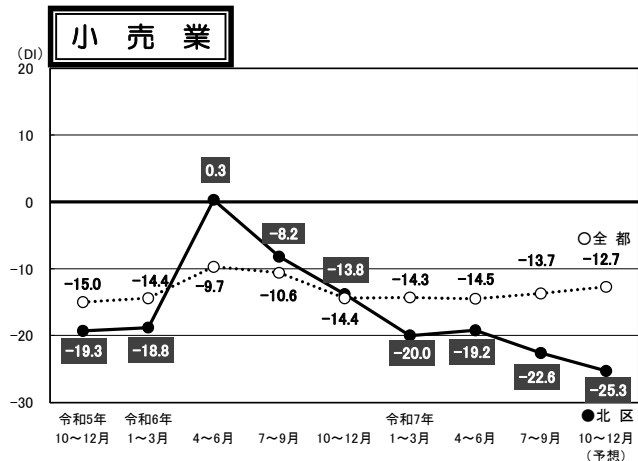
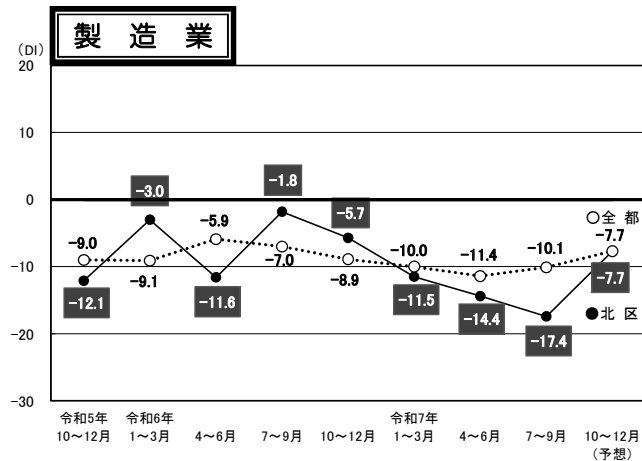
建設業	前期	 D △ 3.1	業況DI (△6.9) はわずかに悪化が強まった。全都 (11.9) との比較では、本区が18.8ポイント大幅に下回っている。売上額は再び上昇を強めたが、収益は前期同様の減益が続いた。受注残は多少増加傾向を強め、施工高も増加幅が大幅に拡大した。請負価格は再び上昇傾向が大きく強まったが、材料価格は幾分上昇し厳しさが増した。資金繰りは容易な状況から厳しい状況に転じ、借入難易度は前期同様の窮屈感で推移した。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は10.0%で前期 (15.2%) から5.2ポイントの減少となった。残業時間はわずかに増加感が現れ、人手は不足感がさらに増した。
	今期	 D △ 6.9	
	来期	 D △ 5.7	

※DI (Diffusion Index) とは

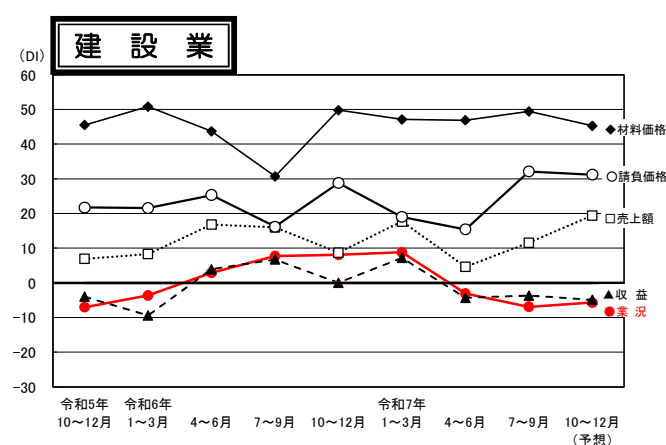
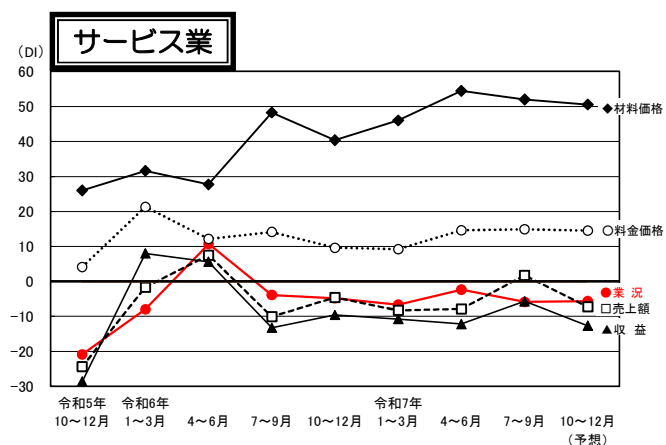
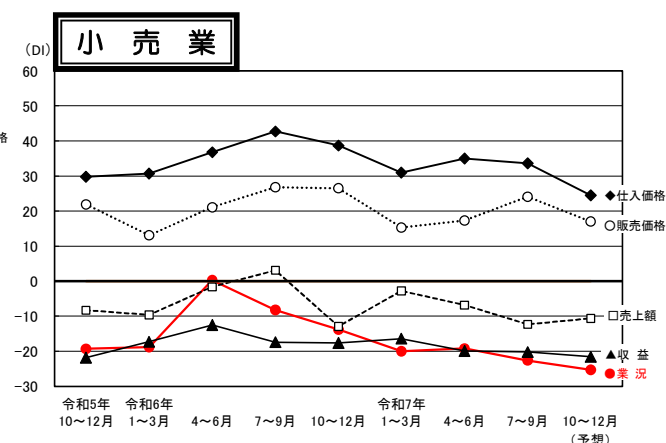
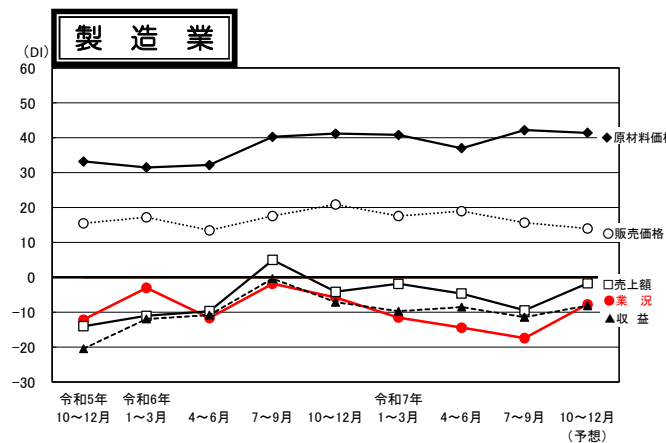
DI (ディーアイ) は、増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

例: 「良い」28.7%、「どちらでもない」49.4%、「悪い」21.9%の場合 → 28.7-21.9=6.8 (=DI)

北区と全都の業況の動き（実績）と来期の予測



業況と売上額、収益等の動き（実績）と来期の予測



北区 業種別 経営上の問題点

製 造 業			小 売 業			サービス業		建 設 業	
上位項目	原材料高	38.6%	売上の停滞・減少	36.7%	同業者間の競争の激化	33.3%	材料価格の上昇	53.3%	
	売上の停滞・減少	30.7%			同業者間の競争の激化	利幅の縮小	29.2%	利幅の縮小	26.7%
	同業者間の競争の激化	26.1%	利幅の縮小	26.5%	人件費の増加	20.8%	人手不足	23.3%	
	利幅の縮小	19.3%	大型店との競争の激化	22.4%	材料価格の上昇	16.7%	売上の停滞・減少		
	大手企業との競争の激化	14.8%	商店街の集客力の低下	14.3%	売上の停滞・減少		下請の確保難		13.3%

北区 業種別 重点経営施策

製 造 業			小 売 業		サービス業		建 設 業	
上位項目	経費を節減する	53.4%	経費を節減する	57.1%	販路を広げる	45.8%	経費を節減する	53.3%
	販路を広げる	46.6%	品揃えを改善する	30.6%	経費を節減する	33.3%	人材を確保する	26.7%
	人材を確保する	14.8%	宣伝・広告を強化する	18.4%	宣伝・広告を強化する	25.0%	販路を広げる	20.0%
	情報力を強化する		商店街事業を活性化させる		店舗・設備を改装する	12.5%	情報力を強化する	10.0%
	新製品・技術を開発する 提携先を見つける 不採算部門を整理・縮小する	9.1%	売れ筋商品を取り扱う	14.3%	技術力を強化する 人材を確保する		技術力を高める	6.7%

東京都の景況

＜製造業＞……業況は前期同様の厳しさ続く

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・受注残・収益は前期同様の減少幅で推移した。業種別では、食料品が大幅に持ち直し、皮革関連・建設用金属はわずかに改善が見られた。一方、プラスチックは大幅に悪化を強めた。価格面では販売価格・原材料価格ともに前期並の上昇が続いた。資金繰りは前期同様の厳しさで、人手は前期並の不足感が続いている。

＜小売業＞……業況は前期並の悪化幅で推移

業況は前期並の悪化幅で推移した。売上額・収益は前期並の減少が続いた。業種別ではスポーツ用品・玩具で大幅な改善が見られ、木材・建築材料は大きく好転した。一方、医薬品・化粧品が大幅に悪化に転じ、家具・建具・じゅう器は大きく低迷した。価格面では販売価格・仕入価格ともに前期並の上昇が続き、資金繰りは前期並の苦しさで、人手は前期並の不足感が続いている。

＜サービス業＞……業況は前期同様変化なく推移

業況は前期同様変化なく推移した。売上額・収益は増減なく推移した。業種別では情報サービス・調査・広告においてわずかに好感感が強まった。価格面では料金価格は前期並の上昇が続き、材料価格はわずかに上昇が弱まった。資金繰りは前期並の苦しさで、人手は前期並の不足感が続いている。

＜建設業＞……業況は前期並の好感感が続く

業況は前期並の好感感が続いた。売上額・受注残・施工高・収益は前期同様の増加が続いた。業種別では職別工事がわずかに上向き、官公庁請負はやや好感感を強めた。価格面では請負価格がわずかに上昇傾向を強め、材料価格はやや上昇が弱まった。資金繰りは前期同様変わらず、人手は前期並の不足感が続いている。

特別調査「不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営について」 (2025年9月上旬調査)

※本特別調査の全業種の結果割合は、記載の4業種に卸売業と不動産業を加えた北区内215社の割合となっています。

問1 米国経済社会政策による貴社売上への影響

	これまでの売上					今後の売上				
	大いに悪影響があった	多少の悪影響があった	特に影響がなかった	むしろ良い影響があった	わからない	大いに悪影響があると予想する	多少の悪影響があると予想する	特に影響がないと予想する	むしろ良い影響があると予想する	わからない
全業種	0.9	10.2	54.0	—	34.0	0.9	19.1	40.5	1.4	33.5
製造業	—	13.6	53.4	—	31.8	—	31.8	33.0	—	29.5
小売業	2.0	12.2	44.9	—	38.8	2.0	16.3	38.8	4.1	36.7
サービス業	4.2	4.2	62.5	—	29.2	4.2	4.2	54.2	—	33.3
建設業	—	6.7	60.0	—	33.3	—	10.0	46.7	3.3	30.0

問2 中国経済減速による間接的事象も含めた影響(最大3つまで)

	原材料・部品・商品等の調達難	中国からの輸入コストの上昇	中国製品との価格競争の激化	中国と取引のある元請け企業からの受注減少	中国人労働者の増加	中国企業や個人向け売上の減少	為替変動による収益の悪化	売掛金回収リスクの増大	その他	特に影響を見込んでいない
全業種	20.5	8.4	7.0	4.2	3.7	2.3	1.9	1.4	—	64.7
製造業	20.5	10.2	15.9	9.1	3.4	3.4	3.4	—	—	55.7
小売業	16.3	10.2	2.0	—	4.1	2.0	—	2.0	—	71.4
サービス業	20.8	4.2	—	—	—	—	4.2	—	—	79.2
建設業	26.7	6.7	—	3.3	6.7	—	—	3.3	—	63.3

問3 貴社にとって望ましい外国為替相場の水準

	為替相場					物価上昇水準				
	現状より円高傾向が望ましい	現状程度が望ましい	現状より円安傾向が望ましい	自社には関係ない	わからない	良い影響をもたらしている	どちらともいえない	悪い影響をもたらしている	自社には関係ない	わからない
全業種	17.3	7.9	4.7	24.8	44.4	—	20.1	33.6	11.7	30.4
製造業	15.9	11.4	8.0	19.3	45.5	—	29.5	35.2	5.7	26.1
小売業	12.2	2.0	2.0	22.4	57.1	—	16.3	32.7	6.1	38.8
サービス業	25.0	4.2	4.2	33.3	33.3	—	20.8	29.2	25.0	20.8
建設業	24.1	13.8	3.4	24.1	34.5	—	6.9	44.8	13.8	27.6

問4 不透明感増す経済社会情勢で見直したい取組(最大3つまで)

	コスト削減	既存顧客との関係強化	新規顧客の開拓	資金繰りの見直し	従業員教育の強化	事業の多角化	新商品・サービスの開発	デジタル化の推進	その他	特にない
全業種	31.6	23.3	19.1	13.5	11.2	9.8	7.4	6.0	—	28.8
製造業	27.3	29.5	19.3	11.4	12.5	12.5	8.0	8.0	—	29.5
小売業	42.9	16.3	12.2	20.4	12.2	6.1	6.1	4.1	—	26.5
サービス業	33.3	25.0	16.7	8.3	16.7	12.5	12.5	4.2	—	29.2
建設業	30.0	10.0	26.7	13.3	3.3	6.7	—	—	—	43.3

問5 不透明な経済情勢で地域金融機関に望むこと(最大3つまで)

	要望に対する迅速な対応	担当者の頻繁な人事異動がないこと	金融機関本部専担者・外部専門家による支援	担当者交代時の丁寧な引継ぎ	支店窓口での相談機能の強化	担当者の訪問回数の増加	IB等の非対面サービスの実施	担当者訪問時の滞在時間の延長	その他	特に期待していない
全業種	30.8	22.4	18.7	18.2	12.6	11.2	4.7	2.8	0.9	21.5
製造業	33.0	21.6	21.6	17.0	11.4	13.6	5.7	3.4	—	20.5
小売業	28.6	26.5	20.4	18.4	18.4	4.1	6.1	—	—	26.5
サービス業	34.8	21.7	13.0	17.4	8.7	13.0	—	4.3	4.3	17.4
建設業	26.7	20.0	13.3	23.3	6.7	13.3	3.3	3.3	3.3	23.3

本調査についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都北区地域振興部産業振興課

TEL:03(5390)1234 FAX:03(5390)1141

刊行物登録番号

7—2—015